

ピーター・D・ラックスは1926年5月1日、ハンガリーのブダペストで生まれた。1941年12月7日、米国が参戦した時には両親とともにニューヨークに向かっていた。

ピーター・D・ラックスは1949年にニューヨーク大学から博士号を授与された。博士論文のアドバイザーはリチャード・クーランであった。クーランはニューヨーク大学にクーラン数学研究所を設立し、ラックスは1972年から1980年までその所長を務めた。1950年にピーター・D・ラックスはロス・アラモスに一年間行き、その後数年にわたって夏期にそこでコンサルタントを務めた。しかし1951年、既に彼はクーラン研究所でそのライフワークを始めるためにニューヨーク大学に戻っており、1958年に教授になった。ニューヨーク大学ではAEC（原子力委員会）コンピューター及び応用数学センターの所長も務めた。

1962年にラックスを米国科学アカデミーのメンバーに指名する際、クーランは彼を「抽象的な数学的分析と個々の問題を解く極めて具体的な力をあわせ持つ稀な人材」と評した。

ピーター・D・ラックスは今日の純粋数学及び応用数学において最も優れた学者のひとりであり、部分微分方程式から工学への応用に至るまで絶大な貢献をしてきた。ラックス＝ミルグラム・レンマ、ラックスの等価定理、ラックス＝フリードリッヒ体系、ラックス＝ウェンドロフ体系、ラックス・エントロピー条件、ラックス＝レヴァーモア理論など、彼の名は多くの主要な数学の成果や数理論の方法に結びついている。

ピーター・D・ラックスは現代のコンピューター数学の創始者のひとりでもある。ハイ・パフォーマンス・コンピューター・コミュニケーション・コミュニティへの彼の極めて重要な貢献のひとつは、1980年から1986年にかけての国立科学評議員会における業績である。彼は国立科学評議員会の招集した、科学及び数学における大規模なコンピューター使用を研究するための委員会の委員長も務め、その先駆的努力の成果はラックス報告書に示された。

ラックス教授の業績は多くの賞によって讃えられてきた。1986年にホワイトハウスでロナルド・レーガン大統領からナショナル・メダル・オブ・サイエンスを授与された他、1987年にはウォルフ賞、1974年にはショヴネー賞、1992年には他受賞者とともに米国数学会のスティール賞を受賞した。また1975年には米国数学会と産業応用数学会からノルベルト・ウィーナー賞を授与された。1996年には米国哲学会の会員に選ばれた。

ピーター・D・ラックスは米国数学会の会長（1977－80）及び副会長（1969－71）を務めた。

ピーター・D・ラックス教授は卓越した教育者であり、数多くの学生を教えてきた。数学教育の改革にも熱心に取り組み、その微分方程式に関する業績は長年にわたって世界の数学の授業の基準となっている。

ピーター・D・ラックスは世界の多くの大学から名誉博士号を授与された。1988年にドイツのアーヘン工科大学から名誉博士号を贈られた時には、彼の数学への多大な貢

献と工学の分野における彼の業績の重要性がともに強調された。彼は数学や諸々の研究及び教育におけるコンピューターの活用に対する積極的な姿勢に対しても賞を受けている。